WISC-IV 解説書作成の試み

保護者・学校教員など、臨床心理の専門家ではない一般の方々に向けて、わかりやすいことばで理解を促すために

平田尚寛

(瑞穂町教育相談室・新子安こころのクリニック)

キーワード：WISC-IV、解説書、わかりやすいことば

An attempt to make an explanatory leaflet about WISC-IV

Naohiro HIRATA

(Mizuho town educational counseling room, Shin-koyasu mental clinic)

Key Words: WISC-IV, explanatory leaflet, plain Japanese expression

目 的

知能検査の実施は、子どもの臨床実践現場において、大切な業務のひとつである。検査は、子どもを理解する重要な手がかりとなる。そして、得られた結果が、子どもの普段の生活の中で生かされることが望ましい。その為には、子どもの保護者や、学校現場の先生方といった、臨床心理の専門家ではない一般の方々にも、検査の結果について、丁寧に説明し、理解していただく働きかけが欠かせない。

筆者の実践現場では、その目的のために、よく用いる検査については、一般の方々にも伝わりやすいような解説書を作り、結果の説明に役立ててきた（瑞穂町教育相談室、2010）。

2010 年、新たに公刊された日本版 WISC-IV（以下：WISC-IV）についても、同じ目的のために、解説書の作成を試みた。

方 法

WISC-IV について理解するために、WISC-IV の理論・解釈マニュアル（日本版 WISC-IV 刊行委員会、2010）をはじめとして、本邦にて入手可能な資料を参照した。

WISC-IV に関する書籍の公刊は、依然としてなされておらず、限られた資料しかなかった。中でも、大六（2011）による講演と資料が、WISC-IV 理解の大きな手がかりだった。

一方で、藤田ら（2005）や藤田ら（2011）など、他のウエクスラー式検査についての書籍も参考とした。しかし、専門用語の多くは、英語の直訳である（例：fluid ability→流動性能力）。加えて、その用語自体も、難しい熟語によって解説されがちである（例：言語概念化→事実や思考内容・概念などを言語によって理解したり表現したりする能力）。

筆者には、神田橋（2011）と同じく“自分の心身活動や生活実感とつながらない抽象概念や理論図式に馴染めない”感覚があり、もっとじっくり理解できる必要を感じた。

そこで、解説書の作成では、専門用語も、“なんとか日常体験の言葉で置き換えて実感をつかもう”（神田橋、2011）と試みた。一般の方々にも、普段の生活の感覚でもつかみやすい、「わかりやすいことば」に置き換えようと努めた。

この、専門用語を噛み砕いていくプロセスは、筆者自身の日々の実践を考えなおすきっかけにもなった。専門用語によって、なんとなく分かった気になっていたことが、そもそも何であるのか、問い直して、具体的に説明することを求められる体験となった。

成果と今後の課題

以上の手順を繰り返し、解説書を 4 ページにまとめた。

解説書にて用いた表現の一部を、以下に挙げる。

- ・ 知能→見る・聞く・覚える・考える・理解する・話す、といった脳機能の働き。

- ・ 言語理解→ことばによって理解する、意味を考える、表現する力。
- ・ 流動性能力→目で見て（ことばを使わないで）推しはかる、察する、直感力。
- ・ プランニング→要領のよさ、手際のよさ。
- ・ 聴覚的ワーキングメモリー→聞き取った情報を、何かに取り組み間、しばらく覚えておく力。

尚、海外の英語文献や原典には全く目を通していない為、専門用語の言い換えも、本来の構成概念とは、ズレもあると考えられる。だが、この解説書では、学術的な厳密さよりも、一般の方のわかりやすさを優先した。その為、いくらか大胆で冒険的な試みとなったかもしれない。

完成した段階で、日本版 WISC-IV 発行元の日本文化科学社・テスト編集部にて、使用の確認と問い合わせを行った。内容については概ね了承との回答があり、倫理的観点から最小限の使用を求められた。その為、必要数のみをラミネート化し、外部への持ち出しを禁じ、WISC-IV の結果の説明を行う時にのみ使うこととした。

今後は、解説書を実践の中で用いながら、手ごたえを確かめつつ、内容について更なる検討を重ねたいと考えている。

学会当日は、ポスター発表の特長を生かし、作成した解説書を掲示して、多くの研究者・実践家の先生方と、対話を通じた情報交換ができることを期待している。専門的研究の観点からの的を射た指摘や、現場実践での知見やアイデアなど、さまざまなご意見を賜りたいと考えている。

引用文献

- 大六一志（2011）．日本臨床心理士会平成 23 年度職能研修会 II（研修資料と講演） 日本臨床心理士会（未公刊）
藤田和弘・前川久男・大六一志・上野一彦・石隈利紀（2005）．WISC - III アセスメント事例集—理論と実際— 日本文化科学社
藤田和弘・大六一志・山中克夫・前川久男（2011）．日本版 WAIS - III の解釈事例と臨床研究 日本文化科学社
神田橋條治（2011）．技を育む 中山書店
瑞穂町教育相談室（2010）．WISC-III について（解説書）（未公刊）
日本版 WISC-IV 刊行委員会（編）（2010）．日本版 WISC-IV 知能検査 日本文化科学社

謝 辞

日々の実践と、解説書作成を応援してくださった、川崎佳子先生（前瑞穂町教育相談室長）と同僚の諸氏、丁寧な回答をくださった日本文化科学社テスト編集部寺井様、プロフィール表作成で技術的に助言してくれた沢雄司さん（藤沢市相談支援教室）、それぞれに感謝を申し上げます。